雨

一年

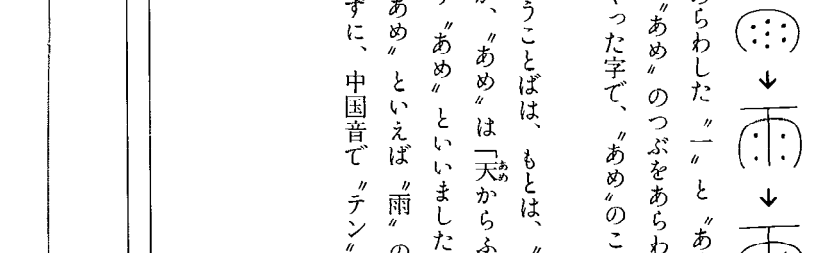
画数 8

筆順 一 冂 而 雨 雨

オン ウ

クン あめ・あま

成り立ち



〝そら〟をあらわした〝一〟と〝あまぐも〟をあらわした〝冂〟と、〝あめ〟のつぶをあらわした〝⁙〟とをくみあわせてつくった字で、〝あめ〟のことをあらわしたものです。

〝あめ〟ということばは、もとは、〝天〟をあらわしたことばでしたが、〝あめ〟は「天からふってくるもの」ですから、やはり〝あめ〟といいました。

いまでは、〝あめ〟といえば〝雨〟のことで、〝天〟は〝あめ〟といわずに、中国音で〝テン〟といいます。

使い方

▽あさから〝雨空〟なので、〝雨具〟をよういしていえをでました。

▽ことしは〝雨期〟に〝雨量〟がすくなかったので、この〝雨〟はまさに〝慈雨〟といえましょう。

熟語例

▽雨空（雨がふりそうな空。また、「雨のふっている空」のいみ。じゅくごのとき〝あめ〟は〝あま〟にかわり、下の〝そら〟は〝ぞら〟にかわります。）

▽雨具（〝雨のときにつかう道具〟といういみで、レインコートや〝かさ〟のことをいいます。）

▽雨期（〝雨のよくふる時期〟のことで、わがくにでは「六月ごろの〝つゆ〟」をいいます。〝梅雨期〟）

▽雨量（降った〝雨の量〟。〝降雨量〟のこと。）

▽降雨（降った雨のこと。また、雨が降ること。）

▽慈雨（〝慈しみの雨〟。〝慈〟は、草木をそだてる〝いつくしみ〟の心のこと。かわいた草木をいきかえらすようにうるおす雨をいいます。）

▽雨降って地固まる（いけないことがあったあと、かえってまえよりものごとがよくなることのたとえ）

円

一年

画数 4

筆順 冂 円 円 円

オン エン

クン まる―い

成り立ち

〝円〟は〝圓〟のりゃく字です。中国では、〝まるい〟ことを〝員（いまは漢音でインとよんでいます）〟といいました。この〝まるい〟いみの〝員〟を〝○〟のなかにいれてつくったのが、〝圓〟です。〝まるい〟こと、また〝まるいもの〟をあらわした字です。

いまの〝円〟は「まるいりんご」のかたちをあらわしたものとみたほうがよくわかるとおもいます。

〝円〟には〝かど〟がないので、〝おだやか〟といういみにつかわれます。

〝円〟がおかねのたんいにつかわれるようになったわけは、おかねが〝まるい〟からです。

使い方

▽かいがんへあそびにいって、円い（丸い）こいしをひろいました。きれいな、ちいさな、円いこいしでした。

▽おかあさんに百円もらって、ノートをかいにいきました。

熟語例

▽円座（おおぜいの人が、円くわのようになって座ること。）

▽円盤（円くてうすいかたちをしたもの。「そらとぶ円盤」といったらUFOのことです。）

▽楕円（まんまるでなくて、すこしながほそくなった円いかたち）

▽円卓（円いテーブル。イギリスのふるいものがたりに『アーサー王と円卓のきし』というのがあります。アーサーという、りっぱな王さまと、まるいテーブルに座るしかくのあるえらいきし――イギリスのさむらいのことをきしといいます――のものがたりです。）

▽円満（かどがなくて、おだやかなこと。「円満なひとがら」などというふうにつかいます。）